



藤田 博之

マイクロマシン実用化の近道は、応用システムの特定とインフラ構造の整備

マイクロマシン技術の応用を探る研究会

RC-11

1. 代表幹事

藤田博之（東京大学 生産技術研究所 教授）
年吉 洋（東京大学 生産技術研究所 助教授）

連絡先

藤田博之教官室秘書
Tel : 03-5452-6248
Fax : 03-5452-6250
e-mail : hisyo@fujita3.iis.u-tokyo.ac.jp

2. 主旨

1980年代の後半より、半導体の微細加工技術を援用して μm 程度の寸法の機械や機構を作るマイクロマシン技術が研究されてきた。当初は米国を中心として、髪の毛の太さ程度の直径のギアやマイクロモータが作られ、現在までに、様々なマイクロアクチュエータや立体的なマイクロ構造などが世界各国で作られている。

このようなマイクロマシン技術の実用例として、加速度センサ、ディスプレイ、プリンタなどがあるが、まだまだ限られた数に止まっており、より多くの有望な応用を見いだすことと、それを実現するためのインフラストラクチャ整備が焦眉の課題となっている。日本でも経済産業省とNEDOを中心に、MEMSファウンダリーサービスやシュミレーションソフトウェア等のインフラ整備に対する支援が行われている。

本特別研究会では、上記の流れに鑑み、

- (1) ニーズの面からマイクロマシン技術と整合性の良い有望な応用分野の探索。
- (2) シーズの面から国内外での応用システムの研究開発事例と最先端のマイクロマシーニングプロセスの紹介。
- (3) 設計・製作引き受け（ファウンダリー）サービス、設計・解析用シミュレーションソフトウェア、信頼性の確認法など、商品化を容易にするためのインフラストラクチャの検討。

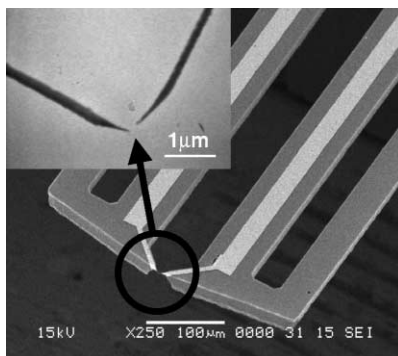
の3つの方向により、上記課題に取り組むことを目的とする。個別の応用システムを考えるだけでなく、バイオナノテクノロジーなど新たな応用分野や製品の導入法についても討議したい。

3. その他

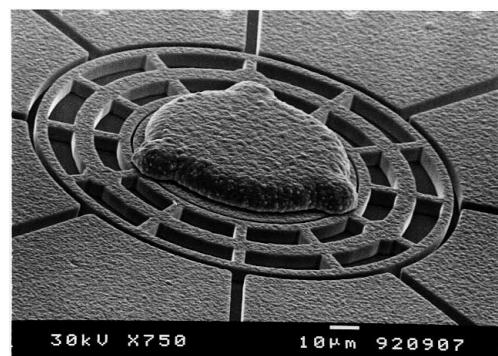
期 間 : 平成16年4月～平成17年3月

年会費・定員 : 15万円、最小5社、最大20社

運用方法 : マイクロマシン技術の応用に関する講演と討議を行う研究会を、年に4～6回程度開催する。応用分野については、ユーザ企業やその分野の学識経験者からの講演を依頼する。また、技術の最先端の動向については、マイクロマシンに関する国際会議の出席報告、論文集の回覧などを企画したい。インフラストラクチャに関しては、ファウンダリーサービスやMEMSシミュレーションソフトウェアに関わる企業や大学の研究者と討議する場を設ける。



太さ $0.1\mu\text{m}$ の可動ツインプローブ



静電マイクロモータ